

北欧視察レポート

キャッシュレス先進国に学ぶ フィンテック時代に 取り組むべき課題



去

る5月21日(28日)にかけ、船井総合研究所主催の「驚きのグレートカンパニー視察セミナー2017」に参加。北欧3カ国——スウェーデン(ストックホルム)、エストニア(タリン)、フィンランド(ヘルシンキ)——のIT関連スタートアップ企業(新しいビジネスで急成長し、市場開拓フェーズにある企業や事業)やITを駆使した行政機関・銀行など13カ所を視察してきた。この間、金融に関連する多くの

気付きを得たので、今号で「キャッシュレス社会の現実」、次号で「金融機関が直面する五つの課題」と題してレポートする。いまだに足を付けて取り組まなければならない「真の課題」は何かを考察するとともに、ビットコイン、ブロックチェーン、オープンAPI、AI、IoT、ICTなど「フィンテック関連の言葉(用語)」が氾濫する中、それらに振り回されることなく歩むべき道筋を探っていきたいと思う。

キャッシュレス化の遅れに 外国人旅行者は不満も

前編 キャッシュレス社会の現実

電子決済が日常生活に浸透 現金を持たない銀行店舗も

金融コンサルタント 大内修

1. キャッシュレス化を実感したいくつかの体験
視察セミナーの参加者は総勢80余名。2班に分かれ、一方の班の40名はIT企業社長、弁護士、司法書士、税理士、大学教授等で構成され、IT化が著しく進むエストニアを重点的に視察。筆者もこのメンバーの一人であった。
もう一方の班の40名は、成長著しい多様な業種の経営者で構成され、サムハラ、クロイマウエイ、

ボルボ、イケアなどスウェーデンの中核企業における働き方改革、労働環境整備による生産性向上等を中心テーマに視察した。
①機中の話
5月21日、ヘルシンキへ向かうフィンランド航空機内でのこと。隣に座った男性は、スイスで企業法務を専門とする40歳前後の弁護士。3週間、広島、京都、河口湖(富士山)、箱根、東京で観光を満喫し、ヘルシンキ経由で自宅のあるチュウリツヒに帰るといふ。
翌22日は月曜日、「しばらく休暇も取れないので必死に働く」と言っていた。日本の印象を聞いたところ、「どの都市も綺麗で治安も良く、風景も素晴らしい。食事も美味しく大満足だった」とのこと。海外旅行が趣味で、すでに30カ国訪れたという。猛烈に働き、長期休暇は趣味の海外旅行でリフレッシュするといった生活サイクルのようであり、とても旅慣れているように感じた。
「日本で困ったこと、不便に感じたことはありませんか」と聞くと、「現金を持っていないと何も

買えないし食事もできない場所が多い。それと、Free WiFi環境が意外に少なく、通信の不由を感じた」と言っていた。
キャッシュレス化についてスイスの事情を聞いたところ、「現金のハンドリング負担を軽減するため、以前から銀行と小売業者が連携して取り組んでいる。まだ現金しか利用できない小売店もあるが、私の場合は支払いの70%程度がカードで済むようになったような感じだ」とのこと。
「次はどの国に行く予定ですか」と聞いたところ、「また日本に来たい。北海道や九州が候補だ」との返事。よほど日本を気に入ってくれたのだろう。
キャッシュレス化の
目的の一つは脱税防止

とでも有名だ。
40年余り前に現地大学に留学し今でも同国NPOと関係のあるN氏の説明によると、税の高負担について国民は自分の老後や子どもへの教育など将来のために「国に預金をしている」と捉えているようだ。それだけに、国民が税金の使道を厳しく監視する意識が高く、国政や地方自治もそれを可能とするような国民参加型行政の制度設計がなされているとのことである。
同国のキャッシュレス化政策は、脱税等の防止を図ることも目的の一つだという。キャッシュフローを電子的に捕捉する比率を高めることで、税金の算定根拠となる課税対象所得等の把握がより透明になり公平性が高まるからだ。
同国のキャッシュレス化を象徴するエピソードとして、「銀行強盗が押し入っても支店に現金がなかった」という話も知られている。三百年前、現在のような形式のお札を世界で初めて発行したのがスウェーデンの中央銀行だともいわれている。その国は、い

ま最も紙幣が使われていない国の一つになっているのだ。
2017年2月に日本銀行が公表したレポート「BIS決済統計からみた日本のリテール・大口資金決済システムの特徴」によれば、現金(銀行券+貨幣)の流通残高の対名目GDP比率を各国・地域別に見ると、調査時点(2015年)で日本は19.4%であり、キャッシュレス化が進行しているスウェーデン(1.7%)の約11倍。英国3.7%、米国7.9%、ユーロ圏10.6%など主要国と比べても際立って高い。
クレジットカードやデビットカードだけでなく、電子マネー、仮想通貨といった新たな決済手段が広がりつつある中で、日本の現金流通残高は突出して大きい。
街中の小売店では
カード端末を設置
①水一本もカード払い、割り勘もカード利用
3カ国とも、露天商など除き、決済を必要とするデパート、スーパーマーケット、レストラン、コ